

平成27年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔 経済学部経済学科昼間コース 〕

プログラムの名称(和文)	現代経済プログラム
(英文)	Economic Analysis
1. 取得できる学位 学士(経済学)	
2. 概要 本プログラムは、経済学部昼間コースの学生を対象にして、経済理論、経済史、経済政策など、主に経済学に関する専門的知識を習得し、応用することによって、現代社会の様々な経済問題を発見し、解決するために必要な理論的・実証的な経済分析能力を養成することを目標とするプログラムである。 本プログラムでは、1・2年次に履修する教養教育科目・専門基礎科目で、広い視野に立って現代の経済問題を理解するために必要な基礎知識を学ぶとともに、3・4年次でより高度な専門知識を学習し、2年間にわたる演習・卒業論文指導という少人数教育を履修することにより、社会に出て役に立つコミュニケーション能力や問題発見・課題解決能力などの実践的・総合的能力を習得し、社会が求める人材を育成することを目指している。 卒業後の進路としては、企業・NGO・NPOや地方自治体・官公庁等が主要なものであるが、さらに大学院に進学して高度な専門的知識を習得することによって、エコノミスト、コンサルタント、研究者などを目指すことも可能である。	
3. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標) 本プログラムは、次のような能力を養成することを到達目標とする。 (1) グローバルな経済の分析や予測を数理的分析手法により行うことができる。 (2) 社会経済の動向を長期的な歴史的視野から見通すことができる。 (3) 地球規模の環境問題などをグローバルな視点から政策立案して実行できる。 (4) 社会福祉や資金調達などの生活に密着した問題を専門的知識・手法を応用することにより解決できる。	
4. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) 本プログラムは、社会科学に関する基本的知識の修得とそれを基にした各分野の専門的能力の育成を柱としている。また、プログラムの到達目標を実現するために学部教育の徹底、大学院進学への推奨などによって、高度な専門的知識の習得をも目指す。 カリキュラムは、それを達成するために必要な基礎的科目を1年次から順次修得して、その上でより高度な実践的授業科目を修得するように編成されている。加えて、プログラムの到達目標の円滑な達成や専門教育科目の効果的学習のための基礎的科目として、教養教育科目としての「基盤科目」・「教養ゼミ」・「平和科目ゼミ」の学習が図られる。 具体的な到達目標としては二段階の到達目標を設定している。 第一到達目標は、専門基礎科目修了時に、経済学に関する基本的知識を修得していることである。より詳	

細には、新聞その他報道等情報と関連分野の基本的知識の連結が可能になることである。

第二到達目標は、専門科目修了時に、各学科目の専門的知識を修得していることである。より詳細には、様々な社会現象に対して、各分野の専門的見地から一定の論述を行うことが可能になることである。さらに、3年次に配当される演習では、少人数教育の徹底化がはかられ、一般の講義では欠落しがちな教員と学生及び学生相互間の人間的な切磋琢磨の機会が期待されている。また、4年次において、卒業論文を提出することが卒業要件として課されている。卒業論文を作成することによって、専門的知識の応用能力や論考する能力が鍛えられるとともに、プレゼンテーションする能力も養われる。

5. 開始時期・受入条件

経済学部昼間コースの学生は、本プログラムを1年次から開始するものとする。

本プログラムを主専攻とする学生の受入上限数は特に設けない。しかし他の教育プログラムを主専攻とする学生の受入に関しては、講義室の収容人数により制限することがある。

6. 取得可能な資格

高等学校教諭一種免許状（商業）が取得可能である。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学修の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀 (Excellent)」、 「優秀 (Very Good)」、 「良好 (Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80~89点)	3
B (良 : 70~79点)	2
C (可 : 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00~4.00
優秀 (Very Good)	2.00~2.99
良好 (Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○位置付け

4年次の卒業論文指導（必修）は、経済関連の諸問題に関するテーマに設定し、必要な文献・資料を収

集し、論文の作成を目指す中で、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力などの獲得を目標としている。

○配属方法・時期

4年次の卒業論文指導を履修する場合には、3年次の演習（必修）から履修することが必要である。3年次の演習の配属は、2年次後期に加入申込を行うことによって決定される。なお、演習を受講することができるものは、2年以上在学して、受講の前年度末までに外国語科目9単位と経済学部専門教育科目18単位以上を含む36単位以上修得した者に限る。ただし、入学後6ヵ月以内休学した者で所定の単位を修得した者も演習の受講資格を特別に認める。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

- ・本教育プログラムの計画(plan)及び実施(do)は、経済学部長による要請を受けて、昼間コース主任が招集する昼間コース教育プログラム委員会が行う。なお、同委員会は、昼間コース主任の他、昼間コース教育プログラム担当教員会から選出された4名の委員で構成される。同委員会は、教育プログラムの計画・実施に関連した必要事項を検討し、教育プログラム担当教員会及び経済学部教員会に報告するものとする。
- ・教育プログラムの評価検討(check)は、経済学部長が経済学部教務委員会に諮問して行う。なお、経済学部教務委員会は、経済学部の昼間コース及び夜間主コースの各教育プログラム委員会から選出される5名の委員と経済学部から選出された委員長の6名の委員からなるものとする。
- ・経済学部長は、経済学部教務委員会の答申内容を尊重して、昼間コースの教育プログラム担当教員会及び教育プログラム委員会に対して教育プログラムの対処(action)を要請する。

(2) プログラムの評価

・プログラム評価の観点

教育プログラムの評価にあたっては、学生の履修状況、成績評価、能力・技能評価、学生の授業評価、卒業要件の充足率、卒業後の進路等に基づき、個別の授業科目及び教育プログラム全体の到達目標の達成度について検討するものとする。

プログラムの各到達目標に関して、「優秀」という以上の評価に到達している学生の割合が75%以上になることを目指す。

・評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

本プログラムの評価にあたっては、学生の履修状況、成績評価、能力・技能評価、学生の授業評価、卒業要件の充足率、卒業後の進路等や、プログラムの各授業科目の到達目標達成度などを検討して提出される経済学部教務委員会からの答申に基づき、経済学部長が行う。

・学生へのフィードバックの考え方とその方法

本プログラムに対する評価結果については、現代経済プログラム委員会において、プログラム内容の改善に反映させる。

備考 1. ○は履修年次を示す。(○印がついた Semester 以降履修可能) なお、実際に開講する学期については、毎学期揭示する授業時間割等に示す。

2. ○の中の数字は必修単位数を示す。

注1：教養教育科目及び専門教育科目の要修得単位数を超えて修得した単位は、自由科目の単位として卒業要件単位に含めることができる。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位（6単位）に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細については、経済学部ハンドブックに掲載の教養教育の英語に関連する頁を参照すること。

注3：コミュニケーション基礎Ⅰ及びコミュニケーション基礎Ⅱを修得した場合は、自由科目の単位として卒業要件単位に含めることができる。

注4：英語のコミュニケーションⅠ及びⅡは、異なる記号（ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB）の4科目を履修することが望ましい。

ただし、再履修となった場合は、特例として、同一記号（ⅠA等）の科目を最大3単位まで履修することができる。

なお、英語のコミュニケーションⅠ及びⅡは、習熟度別に指定されたクラスで4科目すべてを受講すること。詳細は、経済学部ハンドブックに掲載の教養教育の英語に関連する頁を参照すること。

注5：領域科目、健康スポーツ科目の中から、合計16単位を修得すること。なお、健康スポーツ科目は最大2単位までとし、これを超えて修得した単位は、自由科目の単位として卒業要件単位に含めることができる。

注6：指定された基盤科目のうち6単位を超えて修得した単位は、領域科目・健康スポーツ科目の単位として卒業要件単位に含めることができる。また、指定以外の基盤科目を修得した場合は、自由科目の単位として卒業要件単位に含めることができる。

注7：A I M S - H U プログラムにより修得した単位を20単位まで卒業要件単位に含めることができる。（「派遣先で修得した専門科目：16単位」、「課題研究：2単位」、「国際課題研究：2単位」）

注8：自由科目には、教職に関する科目や副専攻プログラムで修得した単位を含めることができない。ただし、「商業科教育学概論Ⅰ」、「商業科教育学概論Ⅱ」及び「職業指導」は専門科目として卒業要件単位に含めることができる。

（1年間に履修登録可能な単位数）

第14条に定める履修登録単位数の上限（44単位）に注意すること。詳細は、経済学部ハンドブックに掲載の履修上の注意事項を参照すること。

現代経済プログラム専門基礎科目・専門科目一覧

科目区分	授業科目名	開設単位数	履修年次区分	科目区分	授業科目名	開設単位数	履修年次区分	
専門基礎科目	経済数学	2	1	専門科目 (応用経済学)	財政学3	2	3	
	統計学1	2	1		財政学4	2	3	
	統計学2	2	1		地方財政論1	2	2	
	経済史総論1	2	1		地方財政論2	2	2	
	経済史総論2	2	1		金融論3	2	3	
	ミクロ経済学1	2	2		金融論4	2	3	
	ミクロ経済学2	2	2		ファイナンス1A	2	2	
	マクロ経済学1	2	2		ファイナンス1B	2	2	
	マクロ経済学2	2	2		ファイナンス2	2	3	
	経済政策論1	2	2		ファイナンス3	2	3	
	経済政策論2	2	2		労働経済学1	2	3	
	国際経済学1	2	2		労働経済学2	2	3	
	国際経済学2	2	2		労使関係論1	2	2	
	金融論1	2	2		労使関係論2	2	2	
	金融論2	2	2		専門科目	簿記概論	2	2
	財政学1	2	2			商業科教育学概論I	2	2
財政学2	2	2	商業科教育学概論II	2		2		
専門科目 (理論・計量経済学)	応用ミクロ経済学1	2	3	職業指導		2	2	
	応用ミクロ経済学2	2	3	特別講義(経営学)		2	3	
	計量経済学	2	2	特別講義(会計学)		2	3	
	経済統計学	2	2	特別講義(情報論)		2	3	
	経済時系列分析入門	2	3	特別講義(インターンシップ)		2	2	
専門科目 (歴史経済科学)	日本経済史1	2	3	特別講義				
	日本経済史2	2	3	特別科目		2	3	
	政治経済学1	2	3	各国経済論1	2	2		
	政治経済学2	2	3	各国経済論2	2	2		
	経済学史1	2	3	演習	4	3		
	経済学史2	2	3	卒業論文指導	4	4		
専門科目 (経済政策)	公共経済学1	2	2	課題研究	2			
	公共経済学2	2	3	国際課題研究	2			
	産業組織論1	2	3					
	産業組織論2	2	3					
	国際経済政策論1	2	3					
	国際経済政策論2	2	3					
	国際金融論1	2	2					
	国際金融論2	2	3					

1. 授業科目の履修年次は、学習上もって必要なもの、あるいは授業内容の難易度から指定されたものであるため、必ず指定された年次以降に受講しなければならない。
2. 特別科目は、本学で実施されている短期交換留学プログラムに参加する留学生のための英語による授業科目である。このプログラムに参加していない学生も担当教員の許可を得れば履修可能である。
課題研究及び国際課題研究については、AIMS-HUプログラムに参加する学生のための授業科目である。
3. 特別講義を開設する場合、その名称、単位数及び履修年次は、その都度教授会で定める。
4. 開設単位数は、修得可能な上限単位数を示す。

現代経済プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 経済問題の数理的分析手法に関する基礎知識	経済問題に対して、独自の数理的分析・検討を行うことができる。	経済問題に対して、適切な数理的分析・検討を行うことができる。	経済問題の数理的分析に関する基本的理解ができる。
	(2) 経済問題の歴史的的分析に関する基礎知識	経済問題に対して、独自の歴史的的分析・検討を行うことができる。	経済問題に対して、適切な歴史的的分析・検討を行うことができる。	経済問題の歴史的的分析に関する基本的理解ができる。
	(3) 経済問題の理論的分析に関する基礎知識	経済問題に対して、独自の経済理論的分析・検討を行うことができる。	経済問題に対して、適切な経済理論的分析・検討を行うことができる。	経済問題の理論的分析に関する基本的理解ができる。
	(4) 人類社会が抱える歴史的・現代的課題に関する基礎知識	人類社会が抱える歴史的・現代的課題に対して、多角的な視点から理解ができる。	人類社会が抱える歴史的・現代的課題に対して適切な理解ができる。	人類社会が抱える歴史的・現代的課題に関する基本的理解ができる。
	(5) 各学問領域についての基礎知識	各学問領域についての基本的理解をもとに、問題を独自に分析・検討することができる。	各学問領域についての基本的理解をもとに、問題を分析・検討できる。	各学問領域について、基本的理解ができる。
能力・技能	(1) 経済理論、統計学、計量経済学等に関する知識を応用して、数理的分析を展開する能力	経済理論、統計学、計量経済学等に関する知識を応用して、独自の視点から計量経済学専用プログラムを用いて数理的分析を展開することができる。	経済理論、統計学、計量経済学等に関する知識を応用して、計量経済学専用プログラムを用いて適切に数理的分析を展開することができる。	経済理論、統計学、計量経済学等に関する知識を応用し、基本的統計分析プログラムを用いた数理的分析を理解することができる。
	(2) 経済史、経済学史、政治経済学等に関する知識を応用して、歴史的的分析を展開する能力	経済史、経済学史、政治経済学等に関する知識を応用して、独自の視点から経済問題に関して歴史的的分析を展開することができる。	経済史、経済学史、政治経済学等に関する知識を応用して、経済問題に関して適切に歴史的的分析を展開することができる。	経済史、経済学史、政治経済学等に関する知識を応用して経済問題に関し歴史的的分析を理解することができる。
	(3) 経済政策、国際経済学、経済事情等に関する知識を応用して、政策課題を分析・検討する能力	経済政策、国際経済学、経済事情等に関する知識を応用して、経済問題を解決するための独自の視点から政策課題を立案・分析・検討することができる。	経済政策、国際経済学、経済事情等に関する知識を応用して、経済問題を解決するために適切に政策課題を立案・分析・検討することができる。	経済政策、国際経済学、経済事情等に関する知識を応用して、経済問題を解決する政策課題を設定し明らかにすることができる。
	(4) 財政学、金融論等に関する知識を応用して、生活に密着した問題を解決する能力	財政学、金融論等に関する知識を応用して、現実の経済問題に対して実践的応用理論を適用し、独自の視点から生活に密着した問題を解決することができる。	財政学、金融論等に関する知識を応用して、現実の経済問題に対して実践的応用理論を適用し、生活に密着した問題を適切に解決することができる。	財政学、金融論等に関する知識を応用した現実の経済問題に対して適用できる論理的思考を行い、実践的応用理論の理解ができる。
	(5) 外国語を利用して、日常的なコミュニケーションを図る能力	外国語を利用して、日常的なコミュニケーションを適切に図ることができる。	外国語を利用して、日常的なコミュニケーションをある程度図ることができる。	外国語を利用して、基本的なコミュニケーションを図ることができる。
総合的な能力	(1) 現代社会の経済問題に対して数理的手法を用いて分析・予測する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	計量経済学専用プログラムを用いて、独自の分析ができる。ゼミナール等の議論では全体をリードすることができ、説得的なプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題の中から課題を設定し、経済学の分析フレームワークの中で最適解を導き出せる。	計量経済学専用プログラムを用いて、適切な分析ができる。ゼミナール等では積極的に発言ができ、資料を作成してプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題を経済学の分析フレームワークの中で検討することができる。	基本的統計分析プログラムを用いた分析ができる。ゼミナール等では適切な発言ができ、Word、Excel等を利用して資料を作成することができる。また、自ら発見した問題に関連した適切な文献・資料を収集することができる。
	(2) 社会経済現象を長期的な歴史的視野から検討する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	経済問題に関して独自の歴史的的分析・検討ができる。ゼミナール等の議論では全体をリードすることができ、説得的なプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題の中から課題を設定し、経済学の分析フレームワークの中で最適解を導き出せる。	経済問題に関して適切な歴史的的分析・検討を行うことができる。ゼミナール等では積極的に発言ができ、資料を作成してプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題を経済学の分析フレームワークの中で検討することができる。	経済問題に関して、歴史的視点からの分析・検討ができる。ゼミナール等では適切な発言ができ、Word、Excel等を利用して資料を作成することができる。また、自ら発見した問題に関連した適切な文献・資料を収集することができる。
	(3) 現代社会の経済問題や政策課題を解決するための政策を立案する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	経済問題を解決するための独自の政策課題を立案・実行することができる。ゼミナール等の議論では全体をリードすることができ、説得的なプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題の中から課題を設定し、経済学の分析フレームワークの中で最適解を導き出せる。	経済問題を解決するための適切な政策課題を立案・実行することができる。ゼミナール等では積極的に発言ができ、資料を作成してプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題を経済学の分析フレームワークの中で検討することができる。	経済問題を解決するための政策課題を設定することができる。ゼミナール等では適切な発言ができ、Word、Excel等を利用して資料を作成することができる。また、自ら発見した問題に関連した適切な文献・資料を収集することができる。
	(4) 現代社会の経済問題に対して実践的応用理論を適用し分析・予測する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	現実の経済問題に対して実践的応用理論を適用して独自の分析・検討ができる。ゼミナール等の議論では全体をリードすることができ、説得的なプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題の中から課題を設定し、経済学の分析フレームワークの中で最適解を導き出せる。	現実の経済問題に対して実践的応用理論を適用して独自の分析・検討ができる。ゼミナール等では積極的に発言ができ、資料を作成してプレゼンテーションができる。また、自ら発見した問題を経済学の分析フレームワークの中で検討することができる。	現実の経済問題に対して適用できる実践的応用理論の理解ができる。ゼミナール等では適切な発言ができ、Word、Excel等を利用して資料を作成することができる。また、自ら発見した問題に関連した適切な文献・資料を収集することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

主に1年次に行われる教養教育科目では幅広い教養を身につけると共に、専門教育科目の理解を深める土台を育成する。詳細は以下のとおりである。
 教養教育科目「基盤科目」では、「専門基礎科目」の効果的学習のためのさらなる基礎的科目として、基礎学問の倫理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術の習得が期待される。
 教養教育科目「教養ゼミ」は、「専門教育科目」への導入として位置づけられ、論拠を明らかにした議論や効果的プレゼンテーションの習得が期待される。
 教養教育科目「平和科目ゼミ」では、以下のような知識・能力の習得が期待される。
 1. 平和についての多角的視点、自ら意見を述べる能力

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	(1) 経済問題の数理的分析手法に関する基礎知識	統計学1(○) 基盤科目(○)	経済数学(○) 統計学2(○)						
	(2) 経済問題の歴史的的分析に関する基礎知識	経済史総論1(○)	経済史総論2(○)			日本経済史1(○)			
	(3) 経済問題の理論的分析に関する基礎知識	基盤科目(○)		ミクロ経済学1(○) マクロ経済学1(○) 経済政策論1(○) 国際経済学1(○) 金融論1(○) 財政学1(○)	ミクロ経済学2(○) マクロ経済学2(○) 経済政策論2(○) 国際経済学2(○) 金融論2(○) 財政学2(○)				
	(4) 人類社会が抱える歴史的・現代的課題に関する基礎知識	平和科目(○) パッケージ別科目(○)							
	(5) 各学問領域についての基礎知識	情報活用演習(◎) 領域科目(○) 健康スポーツ科目							
能力・技能	(1) 経済理論、統計学、計量経済学等に関する知識を応用して、数理的分析を展開する能力			計量経済学(○)	経済統計学(○)	応用ミクロ経済学1(○) 経済時系列分析入門(○)	応用ミクロ経済学2(○)		
	(2) 経済史、経済学史、政治経済学等に関する知識を応用して、歴史的的分析を展開する能力					日本経済史1(○) 政治経済学1(○) 経済学史1(○)	日本経済史2(○) 政治経済学2(○) 経済学史2(○)		
	(3) 経済政策、国際経済学、経済事情等に関する知識を応用して、政策課題を分析・検討する能力				公共経済学1(○)	公共経済学2(○) 産業組織論1(○) 国際経済政策論1(○)	産業組織論2(○) 国際経済政策論2(○)		
	(4) 財政学、金融論等に関する知識を応用して、生活に密着した問題を解決する能力			労使関係論2(○)	労使関係論1(○)	財政学3(○) 地方財政論1(○) 金融論3(○) ファイナンス1A(○) ファイナンス1B(○)	財政学4(○) 地方財政論2(○) 金融論4(○) ファイナンス2(○) ファイナンス3(○)		
	(5) 外国語を利用して、日常的なコミュニケーションを図る能力	英語(○) 初修外国語(○)					労働経済学1(○) 労働経済学2(○)		

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合的な力	(1)現代社会の経済問題に対して数理的手法を用いて分析・予測する能力 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	教養ゼミ(◎)				「理論・計量経済学」の学科目の属する演習(◎)		「理論・計量経済学」の学科目の属する卒業論文指導(◎)	
	(2)社会経済現象を長期的な歴史的視野から検討する能力 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力	教養ゼミ(◎)				「歴史経済科学」の学科目に属する演習(◎)		「歴史経済科学」の学科目に属する卒業論文指導(◎)	
	(3)現代社会の経済問題や政策課題を解決するための政策を立案する能力 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力実践的応用理論を用いて分析・検討する能力	教養ゼミ(◎)				「経済政策」の学科目に属する演習(◎)		「経済政策」の学科目に属する卒業論文指導(◎)	
	(4)現代社会の経済問題に対して数理的手法を用いて分析・予測する能力 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題発見・課題解決能力実践的応用理論を用いて分析・検討する能力	教養ゼミ(◎)				「応用経済学」の学科目に属する演習(◎)		「応用経済学」の学科目に属する卒業論文指導(◎)	

(例) 教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

現代経済プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
小瀧 光博	教授	7265	A524	odaki@hiroshima-u.ac.jp
越智 泰樹	〃	7263	A313	yasuki@hiroshima-u.ac.jp
宜名眞 勇	〃	7267	A525	
山田 宏	〃	7214	A603	
松田 正彦	〃	7268	A617	matsuda@hiroshima-u.ac.jp
森 良次	〃	7213	A605	
石田 三樹	〃	7277	A619	mishida@hiroshima-u.ac.jp
岡村 誠	〃	7275	A315	
野本 了三	〃	7274	A618	
大澤 俊一	〃	7266	A312	oosawa@hiroshima-u.ac.jp
千田 隆	〃	7261	A526	tsenda@hiroshima-u.ac.jp
瀧 敦弘	〃	7218	A622	taki@hiroshima-u.ac.jp
二村 博司	〃	7281	A621	futamura@hiroshima-u.ac.jp
松浦 克己	〃	東千田 7032	東千田 S211	kmatsuur@hiroshima-u.ac.jp
早川 和彦	准教授	7264	A528	
宮澤 和敏	〃	7286	A616	kmiya@hiroshima-u.ac.jp
大内田 康德	〃	7289	A527	
小野 貞幸	〃	東千田 7009	東千田 S222	
鈴木 喜久	〃	7285	A419	
尾川 僚	特任准教授	7280	A615	
大河内 治	講師	7298	A422	okochi@hiroshima-u.ac.jp
折登 由希子	〃	7208	A529	
大畑 貴裕	〃	7270	A604	
佐野 浩一郎	〃	7279	A416	
安武 公一	〃	7276	A418	ystake@hiroshima-u.ac.jp
山根 明子	〃	東千田 7031	東千田 S210	

※ 082-424- (内線番号4桁) とすれば、直通電話となります。

(霞：082-257- (内線番号4桁))

(東千田：082-542- (内線番号4桁))

